

○議長（初村 久藏君） 農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩 慶有君） お答えします。

補助事業で、2分の1の事業は残っております。これまで、市で10%上乘せ補助しておりますが、その分は燃油補助のほうに回しておりますが、国費の2分の1については、事業継続しております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 市長、エンジンの取替えは、その前やって、市が取った助成を燃油のほうの切替えになるという話は、担当言っていましたから、それは一致しておりますので（発言する者あり）、今日、関連質問で小島議員が、私の次に待っておりますので、時間の都合上、これで、市長前向きにひとつよろしく願いいたします。何遍も言いますが、しみじみそういうふうな思いになりました。

若い人たちがああいふ職場で、実際に見たときに、やはりこの子たちがこの島にいつまでも残るということを、私は本当思いました。そういうふうな思いで、しっかり話合いの中をつくってほしいと思います。

私のほうは、以上で終わります。

○議長（初村 久藏君） 関連質問に入ります。

対政会、11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 11番、対政会の小島徳重でございます。

私のほうは、磯焼けの一因である食害魚の資源化に向けた、捕獲、流通、加工、販売の仕組みづくりに特化して質問をさせていただきます。

平成28年9月定例会での一般質問を皮切りに、これまで計5回にわたって、この問題について一般質問を行いました。

その間、漁業者、加工業者、行政が一体となった取組が見られるようになり、現在は、未利用魚等流通促進支援事業補助金ということで、取組が展開されております。そして、徐々に成果が上がっていると認識をしております。

しかし、事業はまだ実証段階であり、現場で奮闘されている方々からは、課題も多いと聞いています。流通、加工、販売のネットワークづくりを、もっと強力に進めるべきではないかと思えます。市長のお考えをお聞かせください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 食害魚の資源化についてでございますけども、海水温の上昇によりまして、魚の活動が活発化することで、食害に対して耐性の弱い種類が衰退、消失し、耐性の強い

種類が優占する植生の変化が起きているということは、事実であります。

対馬市における藻場の主要成種であります、アラメ、カジメ類では、魚の食害が顕在化したことによりまして、ほとんどの場所で、網囲い等により、魚の食害から防護しないと残存できない状況であります。

現在、対馬市では藻場の再生を重要課題と位置づけ、取組を展開しておりますが、その中で藻場再生の阻害要因と考えられます、食害魚の駆除と有効活用に努めているところでございます。

食害魚のうちイスズミにおいては、補助事業において、駆除された魚体の利活用について、民間加工業者の積極的な参入、加工技術の向上、販路拡大への取組等が付加価値向上につながってきており、一定の成果が発現していると思っております。

一方、アイゴにつきましては、補助事業での駆除実績が少ない反面、産卵期の6月頃に、一部地域の定置網におきまして、短期間で大量に漁獲されることが多いということで、先ほど、この資料のほう頂きましたけれども、やはりここでも6月にかなりのアイゴが水揚げされているといったところでございます。

そういうことでございますので、この定置事業者の多くの皆様がその処理に苦慮されていることから、アイゴにつきましても、食へつなげる取組が重要であると判断いたし、今年度より地方創生推進交付金を活用して、一部の定置事業者、運搬業者、漁協及び対馬市の水産加工連絡協議会の賛同により、実証事業を開始したところであります。

しかし、今年度は、先ほど申しましたように、通常定置漁獲には着手したものの、6月の大量漁獲に向けた取組には、対応できなかったということから、令和4年度の計画では、年間を通して実証事業を継続していくことで、アイゴの大量漁獲時においても、効率的な流通体制が確立できるよう、取り組むこととしております。

未利用魚の利活用を推進することで、その価値が向上し、有益な食材として認知されることで、駆除との相乗効果が出るものと考えますので、今後は藻場の再生につながる資源循環の取組を加速してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 市長に、今、答弁頂きましたように、食害魚駆除の中で、イスズミは現場の方からの声では、減ったというふうに聞いております。やはりここ二、三年の取組で、本当にその魚そのものが減ったのか、漁師の方々が刺し網であったりといろいろな方法で捕獲されたから、ほかのところにもた場所を移したのか、そこはまだ追跡が必要だというふうにおっしゃっていますが、しかし、実際にそこを漁場としている漁師の方々は、イスズミは確かに減りましたよということをおっしゃっているわけで、ある効果ということで認めたいというふう

思っているんですよ。

ただ、イスズミについては加工についても、いわゆる手法を工夫されて、食材化もうまくある程度いって、認知されている状況にはなっています。

ただ、それをいわゆる消費する段階のところは、まだ十分ではないというふうに思いますが、今日私が特に強調したいのは、市長にもお渡ししていましたが、ここパネルにも上げておりますけれども、アイゴのほうが、いわゆる問題なんですね。アイゴは、定置のほうに集中して入ると、一遍に2トンも3トンも入ることもあると、それが夏場だから加工するのが大変だということですね。

それで、いわゆる一旦保管して、冷凍庫の中で保管して、そして次、加工を徐々にしていくということになるから、保管料がいると。これが一つの問題点ですね。

そして、2番目は、アイゴは御存じのように、いわゆる加工するのに、とげ、いげがありますね。これがあって手がかかる。そして、魚体そのものが小さいから、いわゆる歩留りが悪いと、そして、いわゆる内臓量が多い、そして魚体が小さいために商品化するためには業者の方というか、加工業者の方はなかなか増えないと。今、加工してすり身とかいろんなことにしてある方は少ないわけですよ。

その辺りで、現場で加工してある方々は、今の実証事業の中で補助がついている金額を、アイゴについてはもう少し補助を上げていただきたいという声なんですよ。これ私、水産課のほうの課長には声は届けていましたけれども、市長のもとにまで届いているかどうか分かりませんが、その辺りで、イスズミとアイゴでは、いわゆる加工に違いがありますよという認識は主張していただけますかね。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 令和3年度におきましては、このアイゴの1キロ当たりの補助金は65円ということになっていたようでありまして、これをいろいろ要望等もあったということ聞いておりますけれども、令和4年度では79円までちょっと上げていこうということで、今計画がされているということでありまして、そこに氷代とか送料とか保管料を併せたことで対処してまいりたいということで計画をしていることでもあります。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） ありがとうございます。いわゆる、これは実際、捕獲に関わってある方、運送業者の方、加工される方、それから商品として使われる方、その方々の声はそういうところに凝縮されていたわけですから、ぜひ今述べられたこと、いろんな予算で実施に移していただきたいなと思っております。

次には、イスズミにしてもそれからバリにしても、いわゆる加工すれば品物が原料が入って、

そして加工さえすれば次に今度は消費先が安定してないというか、そこに問題があるんですけど、このことについても、水産課なのか商工関係の部署なのか分かりませんが、その辺りのつながりが不十分だというふうに思っていますけど、これは、以前そのことは学校給食との関係でも取り上げたことがあるんですけども、そのことについて、市のほうは消費へ結びつけるということの手立ては、何か方策を考えてありますか。

○議長（初村 久藏君） 農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩 慶有君） お答えいたします。

確かにこのバリについては、今現在、魚価がしておりませんで、これを流通に乗せるというのは、大変至難の業かなと思っておりますが、今後の予定としましては、島内流通、学校給食を含めて、普及はさせていながら、島外を視野に入れて、練り物工場とかそこら辺の可能性を探っていききたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） ぜひそのことでいかに加工したものが商品に結びつくかということのつながりを強化していただきたいと。

私データとして持っているのは、学校給食だけを例にとっていますけど、学校給食のほうで、海藻類、あるいは魚介類の地元産の消費のデータを教育委員会からもらいましたけども、8給食場があるんですけど、地元の魚介類を一番よく使っている調理場で73.2%、これは突出して高いんですよ。平均したら、魚介類の地元産使用は30.7です。一番低い調理場は、19.3ですよ。すごく差があるんですよ。

これは、調理場で、学校の調理場で調理するわけではない、もうでき上がった製品、練り製品なり、あるいは焼いた、加工した段階で行っているわけですから、どこの調理場でも使えるはずなんです。ところが、そこが使えていない。今日は教育長には答弁を求めていますから、教育長はお聞きいただいて後は御指導いただければ結構ですけど、そういう差があります。

ほかにもいろんな大きな消費をするところ、例えば、病院なり福祉施設なり、いろんなところで低脂肪で高たんぱくというのが、今、イズミにしてもアイゴにしてもそういう商品なんですから、ぜひこれをもっと広げるような手立てをお願いをしておきたいと思えます。そして、加工する人もそうすれば増えます。

そして、アイゴについては、練り製品だけじゃない、それからいろんな干物にしたりするとか方法もあるんですけども、それを、先ほど言ったように、サバ、アジみたいに大きな扱いじゃないけれども、これも地元で商品を回すという意味では、有効になると思うんです。

サーキュラー経済といいますか、ぐるぐる回すという、そういう意味で、今先ほど市長も言わ

れたように、漁獲する人にもいい、それから運送する人にも、加工業者のところに運行する人にも報酬、利益が行く。それから、保管するところにもお金が回るというデータを今これ市が委託してあるこの団体の方がデータも出してありますから、ぜひこれを活かしてやってください。

そして、もう一つは、市長にお渡しをしていましたし、先ほど、作元議員の質問にもありましたし、藻場の回復という点で、五島市が先行的な取組をしていて、ここにありますように、温室効果ガスゼロに藻場活用ということで五島市が取組を始めていて、これ新聞報道もされました。ぜひ対馬市もカーボンオフセットということでクレジット、これ森林については取組をしてありますよね。だから、海についても、先ほどから藻場の回復大事ですよということ出たんですから、この制度を取り入れたらどうかということで提言をしたいんですけど、市長のお考えをお聞かせください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） このカーボンオフセットということで、先ほど議員おっしゃられたように、森林のほうでは対馬市の取組は早かったんですけども、まだまだこの海のほうではブルーカーボンの関係ではまだできていないということでありまして、五島市がさきにこういうふうに行ったということでもあります。

対馬市としてもこの五島市、そしてこの新聞記事を見ますと福岡市等もやっているということですので、先進、先行地等を参考にさせてもらいながら、検討させていただきたいと思えます。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） それから、もう一点、藻場の回復という点では、対馬市には専門的な職員がいないということがありますね。振興局の水産課、それか指導所、普及所ですね、ここのスタッフがおられますよ。それで、事務的な、いわゆる技術的な指導を受けるために、市のほうと振興局の部署を一緒のフロアで仕事をするとかして、そういうことも考えていただきたいなということで、最後にお願いをしておきます。

以上です。

○議長（初村 久藏君） これで、対政会の会派代表質問は終わりました。

---

○議長（初村 久藏君） 以上で、本日予定しておりました会派代表質問は終わりました。

明日は定刻から市政一般質問を行います。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後0時16分散会

---